

表 4

染料名	No. 1	No. 3
酸化剤		
重クロム酸法	鮮明	最も鮮明
亜硝酸ソーダ法	ややくすみをも って発色	ややくすみをも って発色
過硫酸アンモニウム法	最も高い濃度に 発色	鮮明で濃度的に 高い

そこで発色法によって鮮明度、濃度的にも差が生じることがわかる。重クロム酸カリ法又は過硫酸アンモニウム法が良い結果を得た。

〔結 び〕

アンスラゾール染料は大島紬糸染色への利用として低温染色で緋の切れをよくすることと同時に耐光堅牢度が優秀で鮮明であることなど利用度が高いと思われる。

特にこの染料は直接染料、酸性染料、含金染料などに比較して淡色染の場合すぐれた結果が得られるものと考えられるので広く業界に利用させたい。

3.2.9 〔題目〕反応性染料による絹のローケツ染め試作試験

宮内光子 杉尾孝一

<まえがき>

従来の絹のローケツ染めに一般に使用されてきた化学染料は防染に使用しているロウが溶け出すため低温染色を行なった後アイロンで脱ロウし、ガソリンで洗い、そして蒸すという面倒な工程が必要であった。それに湿潤堅牢度や日光堅牢度が充分でないため実用的に欠けている点があった。この点を解決するため常温で染料を吸着させ弱アルカリ性で布に完全に固着し、ソーピングも可能な反応性染料を使って、絹のローケツ染を試作してみた。

<実 験 例>

試作品—ローケツ染めの着物

(1) 染色液の調製

濃 色 染—絹布 500g
 染色濃度—5% (染料25g)
 染 料 名—プロシオンブルー 2R (I.C.I)
 浴 比—1 : 30 対繊維)

(2) 吸収工程

ロウ描きの終った被染物を水で十分湿潤させあらかじめ溶解した上記の染料を染浴に加え被染物を繰り、染料がほぼ一様に繊維になじんだ後食塩水を添加し室温で30分間染色し吸収させる。

(3) 固着工程

ソーダ灰 2g/l
 温 度 25°C
 時 間 60分

あらかじめ溶解したソーダ灰を浴に添加し、60分染色した。

(4) 洗浄工程

ソーピング
 中性洗剤 5g/l
 浴 比 1 : 30
 温 度 95°C
 時 間 10~15分

ソーピング後湯洗、水洗、乾燥して仕上げた

<実験結果>

- 1) 絹の風合は染色前と同じで絹布の脆化もなく、ソーピングにより完全にロウが脱落出来て操作が簡単であった。
- 2) 色調がこれまでの直接染料、酸性染料に比べて鮮明に染色することが出来た。
- 3) これまでの絹のロウけつ染の染色堅牢度に比べて高いまさつ、日光、湿潤堅牢度を得ることが出来、実用的な染物が出来た。
- 4) 染色中の技法も簡単で染斑等の問題も起らなかった。

<結 び>

反応性染料を絹のローケツ染めに応用してみた結果、優秀な色調、風合の製品が簡単な操作で確実に製作することが出来た。

3.2.10 〔題目〕合成皮革における含金染料の染色法と耐光堅牢度

川 島 祐 子

最近合成皮革が多く用いられてきているが、手芸の中でも合成皮革は皮革より安価な事、使い易い大きさ (90cm巾、110cm巾) である事、均一なキメである事等により、その占める割合